

# いぬはりに 環境整備



## 子どもとまちをつなぐ 子育て拠点になる

特集：子育て環境の充実でまちを活性化  
社会福祉法人 三峰会 つきよのこども園 様

特集：これからの子育て支援のかたち  
学校法人 東葛学園 チェリーガーデン 様

いぬはりに  
環境整備  
vol.08

2017年2月1日発行

発行  
株式会社 ジャクエツ 環境事業

K1017-2310-11545

vol.

08

## 設計事務所 ARCHITECTURE OFFICE

### 子どもたちが主役の「宮殿づくり」

ジャクエツの園舎設計のコンセプトは“子どもたちの宮殿づくり”。  
これまでに、幼稚園・保育園専門の設計事務所として、  
400園以上の園舎を設計させていただきました。  
プランニングからアフターフォローまで、  
子どもたちの成長を第一に、それを支える職員の皆さまを  
施設設備の面からサポートいたします。

#### 株式会社 ジャクエツ 環境事業 一級建築士事務所 東京設計事務所

東京都知事登録 第44805号  
〒108-0074 東京都港区高輪4-22-4  
TEL 03-5789-1100

#### 広島設計事務所

〒730-0843 広島市中区舟入本町6-21  
TEL 082-531-0770

#### 福岡設計事務所

〒812-0896 福岡市博多区東光寺町2-8-31  
TEL 092-451-0117

#### 宇都宮設計事務所

〒320-0847 宇都宮市滝谷町20-17  
TEL 028-614-5070

#### 横浜設計事務所

〒221-0865 横浜市神奈川区片倉2-22-1  
TEL 045-488-6253

#### 名古屋設計事務所

愛知県知事登録(い-27) 第13105号  
〒460-0012 名古屋市中区千代田5-11-32  
TEL 052-265-2730

#### 大阪設計事務所

大阪府知事登録(イ) 第24853号  
〒555-0012 大阪市西淀川区御幣島3-11-3  
TEL 06-6471-3939



こども環境の未来をつくる



群馬県みなかみ町  
「ここに住みたい」  
このまちにはそう思わせる  
園があります  
つきよのこども園

#### みなかみ町の子育て支援

みなかみ町は観光業と農業が盛んな自然豊かなまちです。近年は子どもの数が減少したことから、子育て支援事業を最優先課題として「みなかみ町子ども・子育て支援事業計画」を策定。平成27年度から5年計画で取り組んできました。この事業計画に基づき、まちの主導でみなかみ町月夜野地区にあるすべての公立幼稚園と私立保育園を統合。新たな子育て拠点として「幼保連携型認定こども園 つきよのこども園」が誕生しました。



梁が印象的な高天井の廊下を中心に保育室が並ぶ

社会福祉法人三峰会 幼保連携型認定こども園  
つきよのこども園

所在地：群馬県利根郡みなかみ町月夜野464  
定員：240名  
構造：木造一部鉄筋コンクリート造 地上1階  
敷地面積：15317.59㎡  
延床面積：1723.19㎡  
竣工：平成28年3月

第10回キッズデザイン賞(2016)、  
ウッドデザイン賞2016をダブル受賞



# まちの子育て拠点として誕生

「子育て環境を整えることで若い世代の定住を図る」という  
まちの目標のもと、園舎設計がスタート。  
ジャクエツ宇都宮設計事務所が設計を担当し、完成したのが  
群馬県産の木材をふんだんに使ったぬくもりあふれる園舎です。  
まるで木に包まれたように居心地のよい空間で、子どもたちは直接木にふれ、  
木と遊び、木からたくさんのお話を学びながら過ごしています。

つきよのこども園 園長 坂西 さと美 先生

## 「インタビュー」

ジャクエツ環境事業 宇都宮設計事務所 一級建築士 荻野 浩和

### 「子育てするならみなかみ町」 を象徴する園舎

荻野●最初に園舎建築のお話があったのは平成25年のことでしたか。

園長●そうですね。まちの担当課から「地区の4つの園を統廃合し、幼保連携型の認定こども園を創設したい」というお話をいただいたのが始まりでした。まちぐるみの支援があったからこそ実現できたのだと思います。

荻野●落成式の動画が行政のホームページに公開されたように、まちを挙げての一大事業だったという印象があります。住民説明会や行政との打ち合わせも含め、本当に長い時間ご一緒させていただきました。

園長●担当課からは「子どもに最適な保育環境をと」という要望があり、それを一つ一つ形にしていく作業でした。地域の木材を見事に組み合わせた園舎は、あたたかみを感じられ、

竣工式や内覧会に訪れた方々に好評でした。園舎のなかで目を引くのが、柱や床のあちこちに施された象嵌技法<sup>※</sup>による動物や葉っぱで、来園者の間でも話題になっていました。象嵌のなかには実物と間違えて拾おうとする方がいらっしやるほどリアルなものもあり、ふだん園児たちは形をなぞったり、宝探しのようにお目当てを探しながら遊んでいます。

荻野●あの象嵌は設計段階ではもっと少なかったんです。「まちにずっと残るシンボルをつくるんだ」とおっしゃった地元の施工業者のご厚意によるもので、施工中にどんどん増えました。そういう心意気にも本当に感謝しております。

園長●象嵌もそうですが、場所によってさまざまな木材が使い分けられており、木の感触が子どもたちの五感を刺激する居心地のよい空間が実現しました。園の統廃合から新園舎建築による認定こども園の創設ま

で、一連の取り組みをまちが主導で行ったことでも注目を集め、見学者が絶えない状況が続いております。

地域にとつて  
必要不可欠な存在に

荻野●群馬県でも認定こども園の数がどんどん増えてきているようですが、保護者の反応はいかがでしたか。

園長●新しい園への期待もあれば、当然慣れ親しんだ園から違う環境に移ることへの不安もあったかと思えます。私自身は、園児の年齢や通っていた園の形態にかかわらず、行われてきた教育・保育の本質は同じだと思っております。たとえば、保育士が乳児にミルクを与えたり、おむつを替えるときに「たくさん飲めてよかったですね」「きれいになって気持ちいいね」と話しかけることも、心を育み、コミュニケーションを学ぶ立派な教育だと思えます。実際に

園での生活がスタートしてみると、3〜5才児が自分より小さな子のお世話を一生懸命している姿や、これまで違う園に通っていた園児が互いの存在を認め、とてもいいリズムで園での時間を過ごしている様子を目の当たりにし、認定こども園制度のメリツトを感じています。当初は不安があった保護者の方も、ご家庭で子どもたちが園の様子を楽しそうに話すことで安心いただけたかと思っております。

荻野●園児たちの楽しそうな様子が、認定こども園として順調に歩まれていることを物語っていると感じました。子どもたちの明るい笑顔は何にも代えがたい財産ですね。

園長●入園式や運動会などの行事では、園児の祖父母も含め、500〜600名の方が来園し、とても賑やかです。園児も、保護者も、来賓者もそれはうれしそう、まち全体が活気づいたような印象です。その光景に子どもは地域の宝だと実感します。私たちの使命は、地域の宝であるすべての子どもたちに、より質の高い教育と保育を実践していくことだと思っています。園の歴史はまだまだスタートしたばかりですが、この園と園舎が「地域の子育て支援の拠点」として地域の方に親しまれ、長く愛される存在で有り続けることを願っています。



利根川源流の川音が響き、清らかな空気に抱かれた高台に建ち、美しさと機能性を併せ持つ

※象嵌／象は「かたどる」、嵌は「はめる」という意味がある。異なる素材を嵌め込み、模様をつくる伝統技法。



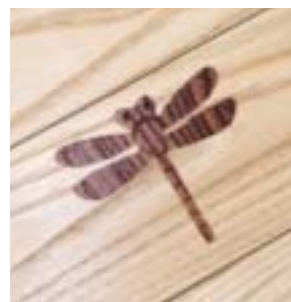
### 子育て支援室

地域の人が自由に利用でき、子育て支援の拠点となる子育て支援室。



### 象嵌

柱や床には、伝統工芸の象嵌技法で象や魚、ロケット、コアラなどが施されています。中には本当の虫や葉っぱだと思いを伸ばす来園者も。



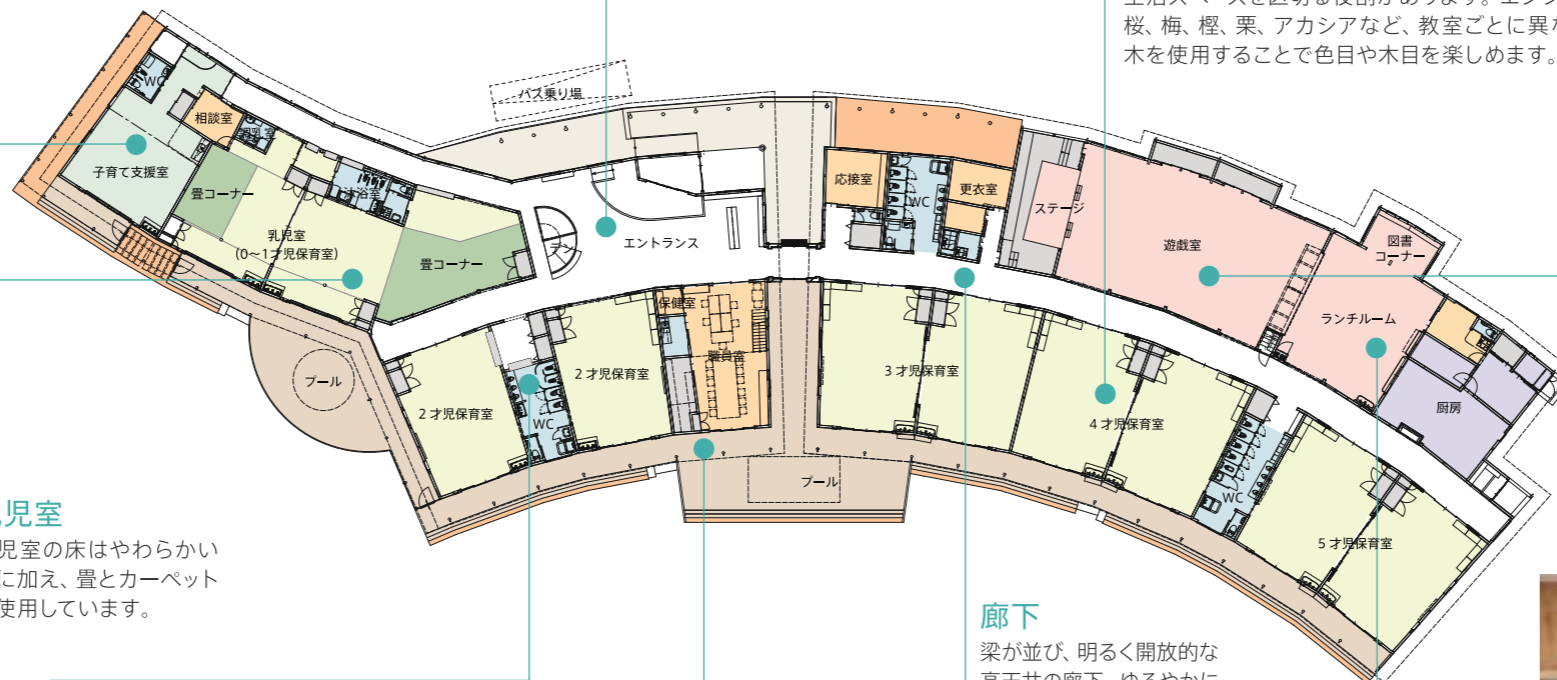
### トイレ

0~5才児までが集うこども園。年代ごとに雰囲気も仕様も異なる複数のトイレがあります。



### エントランス

木の香りが漂うエントランス。きらきら光るガラスを嵌め込んだ隠れ家的なデンは子どもたちが大好きな場所。



### 乳児室

乳児室の床はやわらかい桧に加え、畳とカーペットを使用しています。



### 保育室 (3~5才)

幼児保育室には木目がきれいで堅い栗、腰壁には松や杉を使用。保育室中央に配した2本の柱は、生活スペースを区切る役割があります。エンジュ、桜、梅、榎、栗、アカシアなど、教室ごとに異なる木を使用することで色目や木目を楽しめます。

### 廊下

梁が並び、明るく開放的な高天井の廊下。ゆるやかに弧を描いています。



### デッキ

どの保育室にも直接園庭につながるデッキが設けられています。

木にふれ、木にふれ、木に学ぶ園舎  
群馬県産の木を使った園舎。  
乳児(0~1才)と  
幼児(2~5才)の動線は  
明確に分けられており、  
子どもたちは自由に木にふれ、  
その感触を楽しんでいます。



### 遊戯室

長方形の遊戯室にも幼児用保育室と同じく堅くて耐久性のある栗を使用。



### ランチルーム

異年齢交流の場としても活用。フラップ式のテーブルとイスが配され、背もたれのないイスは子どものバランス感覚を養うにも最適です。厨房はおよそ300人分の昼食を毎日自園で提供。最新鋭の厨房機器を導入することで、人員を抑えることに成功しました。

### 園庭

周囲の山々を見渡せ、広々とした園庭。



働く保護者のために。  
市の要望に対応した保育の場へ。

平成27年の春に本格スタートした「子ども・子育て支援新制度」により、現在、全国の市町村が各地域の子育て支援のニーズに応じて、教育・保育の場の整備に取り組んでいます。この新制度では、待機児童問題の多い都市部と子どもが減っている地域の双方で保育の場を確保するために、少人数の子どもを保育する事業が新たに創設されました。

その新事業の一つである「小規模保育事業※1」に、平成28年4月より挑戦しているのが、千葉県柏市にある「チェリーガーデン」です。歩いてすぐの場所にある昭和40年創立の柏さくら幼稚園がその運営母体で、現在19名※2の1・2才児が毎日の園生活を楽しんで

「これからの子育て支援のかたち」



います。

園のある柏市は年々人口が増加しており、児童数も増える一方。市では平成25年より待機児童問題のアクションプランを策定するなど、子育て支援にも積極的に取り組んできました。「働きながら子育てをする保護者のニーズに合わせるために、幼稚園教育を活かした1・2才の子どもたちの施設づくりを検討していました。ちょうどそのときに、新制度の実施主体である柏市から小規模保育について要請をいただいたのです」と、染谷京子副園長先生は

園新設の経緯を振り返ります。  
「家にあるような、あたたかみある空間になるように」  
小規模保育所を始めるにあたっては、もともと幼稚園での教育を基本にした家庭的な子育て支援事業を運営し

たいと考えており、先行して幼稚園の隣地にある2階建ての1戸建てを購入していたとのこと。新園舎は、それを小規模保育所に増改築することからスタートしました。そして完成した園舎は、あたたかさ  
と安全面を考慮したものに、「アットホームな場所をつくりたい」という副園長先生のこだわりがしっかりと反映されています。通常保育が行われる1階の保育室は、大きな窓を設置することで明るく開放的な空間が誕生。さらに、できる限り角を無くし、丸みをもたせたりは、やわらかな雰囲気を出さず、安全面にも配慮しました。

※1 家庭的保育に近い雰囲気のもと、定員が6、19名の少人数を対象にした保育のこと  
※2 平成28年11月現在

千葉県柏市  
学校法人 東葛学園 チェリーガーデン  
設置主体：学校法人 東葛学園  
定員：19名（1才児9名、2才児10名）  
建物延べ床面積：109.71㎡（1階部分）  
関連施設：学校法人 東葛学園 柏さくら幼稚園（昭和40年創立）

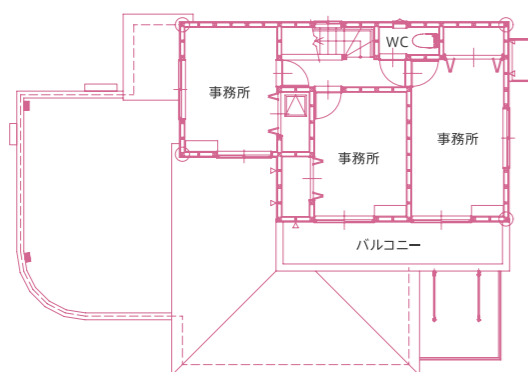


待機児童ゼロへの挑戦  
大規模幼稚園が挑む小規模保育

千葉県柏市 学校法人 東葛学園 チェリーガーデン

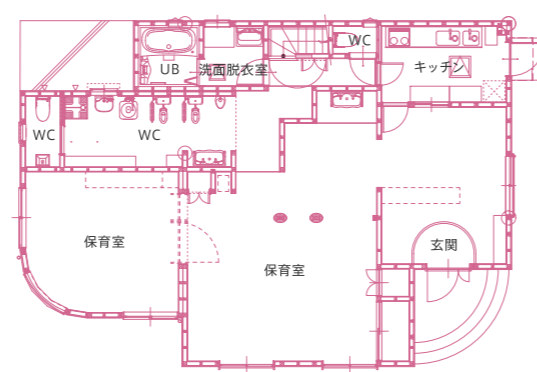
千葉県柏市では、平成25年に待機児童対策として「緊急対策 柏市待機児童解消アクションプラン」を策定。市を挙げての取り組みの結果、同27年には国基準の待機児童数が0人に。翌年も連続で待機児童数ゼロを達成しています。今号では、定員400名を誇る名門幼稚園が、地域の子育て支援の場として開園した小規模保育所「チェリーガーデン」を紹介します。

2nd floor



1階を保育室として、  
2階は事務所として  
利用している

1st floor



# 一問一答 小規模保育所開園を振り返って

開園にあたって  
準備されたものは

バリアフリーや厚生労働省の指針に基づいた厨房設備、庭にクッション性のあるゴムチップを敷き詰めるなど、施設の増改築を行いました。保護者向けに「入園の手引き」を作成しましたが、その中に記載する保育の理念や方針を考えていく過程で、私たちが実現したい保育の姿が明確になってきました。

保護者の方たちの  
反応は  
いかがでしたか

入園当初は保育所経験の無い幼稚園に低年齢児の我が子を預ける事への不安や疑問の声もありましたが、今では先生に対しての信頼を築いていただけたようで、大変喜んでいただいております。また、小規模保育所の狭い環境だけでなく広い幼稚園の中でも活動できたり幼稚園の行事に参加することの喜びがしっかりと伝わっているようです。

開園まで  
苦労されたことは  
ありましたか

長年の幼児教育の実績はありましたが、保育所経験が無い中での開園は、正直苦労の連続でした。小規模保育所とはいえ、認可保育所と設備などは同じ基準を求められます。また、幼稚園との一番の違いである年齢差のある低年齢児を受け入れる事の難しさや、その責任の重さを改めて実感しましたね。他にも、受け入れる園児数が少ないといえども、保護者のみなさんが安心できるような手厚い保育を目指していたので、人材を確保するのが一番大変でした。

今後の夢や  
課題を  
教えてください

母体の幼稚園が情操教育である音楽教育から始まっているので、今後、小規模保育所でも音楽教育を行えるようにしたいと思っています。将来的な展開として、量的に不足している都心部へ設備面のお手伝いが出ればと考えています。そして園バスを活用し、地方の園との交流も実現させたいですね。夢としては、英語や国語など特定の教育を専門とした小規模保育所を展開し、子どもの特性などに合わせて保護者が預ける場所を選べるようにしたいです。



学校法人 東葛学園  
副園長  
染谷 京子 先生



柏さくら幼稚園の充実した設備を共有できるのが大きな魅力



## 柏さくら幼稚園にしかできない 小規模保育を実現



①アットホームな雰囲気のレストランタイム。お友達と一緒に食事も済みます ②保護者にはカードキーを配布。万全のセキュリティ体制で園児の安全を守ります ③少人数ならではの保育士との密接なコミュニケーションも魅力 ④大きなガラス窓を設けた開放的な空間

「幼稚園の付帯施設として得られる安心感と子どもたちの交流」

「衛生環境面やセキュリティ面はもちろん、幼稚園が運営母体ならではの幼児教育に適した施設を利用できる環境にしたかったです」その言葉どおり、柏さくら幼稚園の付帯施設として、その経験を十分に生かした保育を行ったり、整った設備を使用できることは、保護者にとっても安心材料になっているようです。

実際に子どもたちは、幼稚園の行事に参加したり、広い園庭やホールで遊ぶ時間を設けたりなど、幼稚園の園児たちと年齢の垣根を越えた交流を活発にしているようです。

にしており、「子どもたちにとって、もう少し刺激と成長の糧になっている」と副園長先生は語ります。幼稚園にとっても、年下の子どもたちと接することで思いやりの気持ちが芽生えるなど、双方にとっていい影響がみられるといえます。

国が掲げる新制度の取り組みは、住民にもっとも身近な市町村が中心となって進めており、それぞれの地域性を生かした新しい保育のスタイルがしっかりと定着しつつあります。